

資料 3

海事産業・文化を活かした「海のまち」づくりの推進について

海事産業・文化を活かした「海のまち」づくりの推進

- 造船所等、海事産業の存在感が大きい地域が衰退。
- 海事産業全体としても後継者難等による先細りへの懸念。
- 一方、中国・韓国をはじめとするアジアの海事産業の発展。



このままでは、地域の競争力、日本全体の国力が衰退していくおそれ。

「海のまち」づくりの推進

地域に集積された海事産業・文化の活性化に総合的に取り組み、海事関係の人材育成・確保や特色ある地域づくり・地域競争力の強化を推進。



トップランナーを伸ばし、海洋立国・日本の競争力を強化

【推進役】海の次世代人材育成協議会(仮称):市町村、海事産業界、地方運輸局、海事教育機関、大学等

期待されるアウトプット

【人材確保・育成】(例)

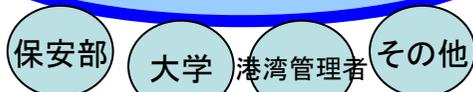
- 若年船員の雇用の拡大
- 離職船員の再就職の推進
- 造船技術の伝承
- 船員教育の充実

等



協議会

※地域の特性を踏まえて構成



【地域・産業活性化】(例)

- 海上交流の拡大
- 海運の観光への活用

等



【産業効率化】(例)

- 中小企業のグループ化

等



地域の特性を活かした「海のまち」づくりを推進



国が活動を支援



【その他】(例)

- 青少年等への海事文化の紹介
- 学校教育との連携
- 産学官の連携

等



地域との連携による海事関係人材育成について（例 今治市）

今治市における海事産業・文化の概要

《今治市における海事産業の概要》

- 造船：18事業所、国内シェア15%（隻数）
- 外航海運：約50社、日本商船隊の約30%
- 内航海運：約250社、県内シェア60%、国内シェア7%（船腹量）

《今治市における海事文化の概要》

- 古くから続く船大工、造船の歴史
- 瀬戸内海運の拠点としての海上交流の文化
- 全国的にも珍しい水軍の歴史遺産



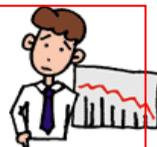
《今治地域にある海事関係機関》

- 今治地域造船技術センター
- 国立弓削商船高等専門学校
- 国立波方海上技術短期大学校
- 今治海事事務所

等

今治市が抱える課題と方向性

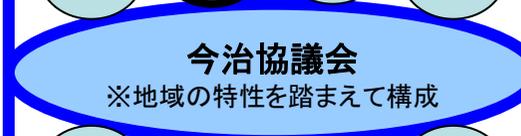
- 県平均に比べて、
- 人口減少率が高い
 - 高齢化率が高い
 - 人口の社会減少率が高い
 - 完全失業率が高い
 - 1人当たり所得額が少ない



- 全国自治体の類似団体平均に比べて、
- 財政力が弱い
 - 1人当たり地方債残高が多い。



個性を活かした地域の活性化が求められる中、今治市において蓄積のある海事産業・文化を《強み》として「海のまち」づくりを推進していくことが効果的。



地域の特性を活かした「海のまち」づくりを推進



国が活動を支援



期待されるアウトプット

人材確保・育成

即戦力の確保・育成

- 船員等海事産業フェア（仮称）
- 造船技術センターにおける造船技術研修
- 海事教育機関を活用した船員技術の向上
- 次世代人材の確保・育成（海へのいざない）
- 子供のための海事教室の実施
- 学校教育との連携
- 練習船などの寄港

産業効率化

- 効率化を進める中小内航海運事業者のグループ化
- 船員の共同訓練

地域・産業活性化

- 造船所見学等の産業観光の実施
- 海事関係国際会議の開催